

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101133		
法人名	社会福祉法人さわやか会		
事業所名	グループホーム昇陽館		
所在地	山口県下関市長府黒門南町6-54		
自己評価作成日	令和7年2月3日	評価結果市町受理日	令和7年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和7年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内に介護付きの有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、ケアハウスがあるので入居者の介護度(レベル)に応じて住み替えが可能。そのため、身体介護がメインとなってきた入居者は介護付き有料等に転居。環境が大きく変わらない状態で住み替えができることは1つのメリット。グループホームとしては、数年間、職員があまり変わっていないことで入居者とはなじみになっているのではないと思う。また、研修の方法を今年度より変更。従来は資料を配布、レポート提出だったものを動画視聴に変更。各自が空いた時間等で視聴できるようになったので理解度も深まってきているのではないと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内複数の事業所が併設、隣接している総合的な高齢者支援施設となっており、其々の事業種別や特色において、利用者の状態や特徴に合わせて選択でき支援が行える体系である。現在、事業所は認知症介護に特化したケアを提供するコンセプトを方針と定め、他事業所との連携において転居も可能とし、利用者の身体状態に応じ住み分けをうまく活用し支援に繋げている。今年度より研修体系を変更し、動画視聴型に切り替えたことで職員は空いた時間に確認できるようになり、理解度が深まった実感も得られ資質の向上に繋がっている。外出など十分にできていない現状も課題として捉え、外に出る機会を増やせるように検討を行うことに意欲的に取り組む姿勢がある。避難訓練など防災においても法人内事業所との連携や協力体系が確立しており有事の備えにも安心が持てる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (グループホーム満珠)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、「理念」について考える研修機会を設けた。一堂に会することはできなかったが、各人が考えるきっかけはあった。ユニット内に掲示されてもおり、実践できている部分、個人差のある部分が混在している。	開設当初からの理念を掲げ継続的に取り組んでいる。職員一人ひとりが理念を理解することが大切であり、そこから自身の介護感を育み高めていけるようにしていくものと考え、今年度は理念の研修を実施している。職員それぞれが考える意義のある機会となり今後も継続していく方針である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前のようにとはいかないが、地域へ買い物へでかけたり、行事で外出したりと交流機会は設けることができている。	地域との付き合いは課題として認識を持っており、これから少しずつでも地域との関わりの機会を設ける意欲を持ち、買い物に利用者をも一人でも連れて外出を意図的に増やし関わりや交流に繋がるよう取り組みを始めている。市議会議員や地域の方と関わり地域の情報共有にも努めている。	地域との関係性も十分ではない状況がある。コロナ禍での自粛が関係してきたこともあるが、現在の状況に合わせ法人の夏祭りでの交流や関わりの創出、地域に出ていく姿勢を持ち検討することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験等においては支援方法等教えることができたかと思う。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	勤続年数の長い職員はわかっているが、若い職員は理解が充分ではない。	外部評価における自己評価を職員それぞれに配布し、目的や意義を説明し取り組んでいる。職員により理解に差があり、今後も継続して理念にもとづく支援の実践に繋げるため取り組むことや、次のステップとして個人面談を行うことを計画するなどを実践し理解や周知に取り組む姿勢である。	評価を行うにあたり、職員の理解に差が伺える状況がある。会議や研修、面談を行い職員一人ひとりに説明し評価の意義の理解を深めることで、職員自身がより評価の視点を持ち日々の支援を振り返ることができ、気付きが増える機会、統一したケアの展開に繋がることを期待します。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練を運営推進会議の際に行った。避難誘導等の気付きなどをご意見いただき参考になった。	家族代表をはじめ、市議会議員や民生委員を務めた地域ボランティア、地域の複数の居宅介護支援事業所といった様々な関係者が参加し開催している。避難誘導を実際に見てもらい気付きや助言を受けたり、入居や困りごとの相談や地域の情報の共有など意見交換の機会や場となっている。	家族への周知が不足している。家族への運営推進会議の案内やアナウンス、議事録を送付し報告することで少しでも家族が会議の存在や内容を周知でき、事業所の取り組みへの理解が深まることや協力が得られていくことを期待します。

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市議会議員が出席してくださっているので、協力関係が築けていると思います。	毎月空室情報を市に報告することや、担当者に介護保険での解釈や業務上の質問や確認を行う他、生活保護の支援に担当課との連携や運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し意見交換するなど市町との関係性を築いている。市からの研修案内にも職員に伝え参加を促している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制するような言葉かけもないように思うが、玄関は施錠している。	3カ月毎に法人内事業所合同にて身体拘束廃止委員会を開催し、年2回の研修を通して身体拘束をしないケアについて理解を深めている。各ユニット毎に利用者全員に心身状態や状況を話し合うミーティングを行い、気になる点や介護の対応を検討することで身体拘束を未然に防いでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して職員の理解は進んでいると思う。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を活用されている入居者様がいらっしやたので支援していた。だが、学ぶ機会はない。都度、相談しながら対処しているので支援機会がなければ、わからないままになってしまう可能性もある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門的な言葉を使いすぎないようにしているが、十分な理解といわれれば少し不安。介護度が高くなると費用負担も増える事の理解がないご家族もいらっしやる。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への対応に対して、苦情があったので苦情受付で対策を練って改善した。運営への反映はできている。	利用開始時に意向を確認している。利用者へは普段の会話の中で思いを汲み取り把握している。家族には面会時や電話連絡にて確認し、それぞれ反映できるよう努めている。毎年、家族会を行い10家族以上の参加があり、職員と話ができる機会となり意見が表出できる場となっている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日報があるが、提案という内容はあまりない。また、代表者が直接話を聞く機会もないため、職員の意見が反映されるようにはなっていない。	職員会議の他、普段から管理者やリーダーを務める計画作成者に話をし、意見や希望などをあげている。購入物品や職員同士の関係性など様々な相談に適宜対応しサポートを行っている。月二回ある法人会議に管理者が参加し、必要に応じて代表者に相談を行い検討がなされている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	休日出勤や時間外等が多い時期はあった。すぐにはいかなかったが、採用活動が進んだり、シフト調整等でいくらかは改善された。業績に応じ、年度末に期末手当が支給されるようになったり、インフレ手当が支給されたりと、法人として改善等に努めていると思う。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修方法が変わったので、受けやすくなった。ただ、手元に資料が残るわけではないので振り返り等ができないのがどうかと感じる。	今年度から研修方法が大きく変わり動画視聴になったことで、職員各自スマートフォン端末やパソコンで確認できるようになり空いた時間を活用して視聴できる利点にて理解度も高まっている実感がある。指導も二人でケアに入れるようにしマンツーマンにて指導できる体制を作っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他事業所の職員等と話すことはあるが、他社となるとあまりない。運営推進会議で居宅のケアマネジャー等と情報交換することはあるが、メンバーも固定化されてきている。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話や様子を見ながら、困っていること、不安な事に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように努めている。 入居が決定する前に見学に来られることが多い。その時に状況や要望を聞くことが多い。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの見学ではあっても、本人やご家族の状況にあわせて、法人内の他事業所を勧めることもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話が弾む入居者様同士の席を近くに配置したり、落ち着きがない方は職員が間に入れるような配置にすることで、入居者間のもめ事が極力起きないような環境となるよう配慮をしている。不安なく共同生活が送れるように接している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来られた際に状況を細かく伝えるなど行い、関係は築けていると思う。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所や昔を思い出してもらったりしている。面会等もご家族の了承があれば、親族以外の方も可能なので途切れないようにはしているが、こちらから積極的にという感じではない。	面会は家族や以前に住んでいた地域の友人や知人など希望に応じ受け入れを可能としている。利用開始時に生活歴などを確認し、本人のなじみを把握している。行事を兼ね懐かしい場所を回ったり、外出ドライブに出かけるなど、人との繋がりや馴染みである場との継続支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を変えたり、介助が必要な方には職員が配慮しあえるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は入院の長期化、その後、帰館が難しいとの判断からくるものがほとんど。なので、本人フォローはあまりないが、ご家族からは相談を受けたりすることもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じ、できるだけ本人の希望をかなえられるように努めている。	食べたい物やしたいことなど日常の会話や何気ないやり取りを通して思いを把握し、申し送りや連絡ノートを活用するなど、職員間で共有している。意思表示が難しい方も家族に確認し本人本位での意向の理解に努めている。誕生日にピザが食べたい、将棋をしたいなど実現した事例がある。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、在宅等で何かしらのサービスを受けられていることがほとんど。そのためケアマネジャー等からもらった基本情報を確認するなどしている。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの活用で把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いながら作成するまでには至っていない。	月1回全体会議で日々の情報や職員意見を確認し、利用者の支援検討を行っている。利用者それぞれに担当者を割当て毎月モニタリングを実施し、意見を計画作成者にあげる形でまとめケアプランを作成している。介護日誌にケアプラン実施記録を記載し、振り返りを見直しに反映させている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に書くことで共有できている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的には取り組めていないように思う。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関して、具体的には取り組めていないように思う。地域のクラブ活動や行事に入居者をお連れすることができればいいが、そうでいていないのが現状。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前までの主治医。現在も2ユニットで4名の先生が往診に来られている。ご家族が受診にお連れすることもあるが、ほとんどの方が往診して下さる先生に切り替えられている。	利用開始以前からのかかりつけ医を主治医として継続を可能としている。心療内科や整形外科の往診があり、眼科は病院側の送迎にて受診ができています。体調不良など何かあれば各主治医に連絡が24時間可能な体制であり、適宜相談し対応している。受診は家族に協力を得ながら行っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を入れてないので、同一建物の介護付き有料の看護師に相談するなどしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	先生が往診に来られた際に状況を聞くなどしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として受け入れられる範囲を明らかにした。そのため、重度化に伴い転居でご理解いただいている。	看取りは基本実施していない。重度化や終末期の状態になると、法人敷地内にある状態に対応できる事業所へ移行し適切に対応していく方針であり、家族にも利用開始時に説明し了承を得ている。本人の状態が変わっていく過程で主治医に相談して判断を仰ぎ、段階的に説明も行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修も行うし、ミーティング時に再発防止策を検討したり共有したりしている。	事故防止、リスクマネジメント研修をそれぞれに毎年実施している。法人内合同で事故防止委員会を設置しており話し合いを行う他、事故報告書は管理者が確認し、職員一人ひとりが内容の周知を徹底し再発防止に努め取り組んでいる。日々の気づきは都度共有し必要な対策を検討している。	

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独の施設ではないので、他事業所の職員と共同で避難誘導などできるが、地域との協力は今後も課題。	火災や風水害を想定した避難訓練を年4回実施している。法人内事業所が敷地内に併設、隣接しており、他事業所との協力体制が整備され確立している。BCP（業務継続計画）の研修も避難訓練の内容を盛り込み実施している。備蓄も1週間分の備えとし、ローリングストックにて管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格など違うので、その方にあつた言葉掛けや接し方を心がけている。	不適切に感じることは職員会議で個別に検討している。トイレの声掛けなど課題も認識しながら、その時できる配慮や判断が行えるように意識し努めている。年間研修にプライバシー保護や接遇研修を行い日々の実践に活かせるよう取り組んでいる。書類関係は鍵付き書庫で管理している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは否定しないように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切に過ごしてもらっているが、入浴介助等は職員（施設）側の都合ではある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着てもらえるように、本人の意見も聞きながら支援している。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房への委託。そのため準備や片付けを一緒に行っている。たまにおやつを作ったりはするが、好みは反映されているとは言えないかも。	食事は併設施設の厨房で作り、ご飯はユニットで炊いて提供している。利用者には盛り付けや準備、片付けなど一緒に行い日々の役割となっている。月1回法人全体で給食会議を行い、意見を出しメニューに取り入れてもらうこともある。行事でおやつを作る機会も増やし取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量、日々記入している。刻みなど工夫しながら行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、義歯洗浄行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、毎日の個別ケースに排泄状況を記入し、個別の排泄間隔やパターンを把握しトイレ誘導に繋げている。夜間帯は時間を決めて誘導や介助を行っている。月1回の全体会議などで個別ケアの協議を行い、機能低下の予防、スムーズな排泄や体調管理に努めている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで確認。牛乳やヨーグルトを取り入れるなど工夫している。		

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤を使用したり、楽しんでいただく工夫をしている。	週2回午前中を基本とし実施し、入浴を無理強いせず日にちや時間を変えて勤めることや、入浴剤の使用、湯温や浴槽に浸かる時間も個人に合わせて行い自宅でのお風呂と同じ感覚で入ってもらえるように取り組んでいる。ノンアルコールビールで風呂上がりの一杯を楽しむことも行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自由に居室で横になってもらえるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更や追加などは申し送りノートに記入するとともに職員にも伝達している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた役割を持ってもらうようにしているが家事が中心で、生活歴を活かしているとはいえないかもしれない。	掃除や食器洗い、洗濯物を畳んだりと日常生活における家事全般を一緒に行い、日々の生活が役割として意欲に繋がっている。生け花も楽しみの一つであり正月に玄関に飾り披露した。ベランダで海を眺めゆっくり過ごすこともよくあり、そこでお茶をしたりと豊かな時間を過ごせている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	回数は多くはないが行事として外出機会を設けるようにしている。1月は初詣に行った。運転免許をもっている職員が少ないので、頻回に外出支援ができていない。	日常的に敷地内の散歩やベランダに出てつるぐなど行っている。家族が外出に連れていかれることもよくあり楽しみとなっている。行事にて紅葉狩りや初詣など行う他、今後、外食を企画していきたいなど外出機会を少しずつ増やし非日常の楽しみとなるよう意欲的に検討している。	

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金で管理しているが、本人が直接使う機会はあまりない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話することはない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように、壁画を作ったりカレンダーを作ったりしている。	リビングから下関の海が一面展望でき、日の時間とともに流れる一日の景色の風景が生活に彩をもたらしている。その景観を眺めれるスペースやソファを配置しゆっくりくつろげる環境となっている。利用者の作品や壁画を飾り、季節の移ろいが感じられる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に縛りはないので、それぞれが好きな場所（ソファであったり食堂であったり、居室）で過ごしていただけるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具等を持ってきてもらうようにしている。	居室はベッドやクローゼットの備え付けがあり、そこに筆筒や机をはじめ、テレビや仏壇など自宅で使い慣れた物や愛着がある物を自由に持参ができ、落ち着ける生活空間となるよう環境を整えている。居室の配置も海側と山側それぞれに位置し、窓から四季の風情を眺めて過ごせる。	

自己	外部	項目（グループホーム満珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の動線を考えた配置にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (グループホーム干珠)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、「理念」について考える研修機会を設けた。一堂に会することはできなかったが、各人が考えるきっかけとはなった。ユニット内に掲示されてもおり、実践できている部分、個人差のある部分が混在している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前のようにとはいかないが、地域へ買い物へでかけたり、行事で外出したりと交流機会は設けることができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で意見交換等おこなっている。が、地域への発信・理解促進まではできてない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	「理念」の理解を深める、皆に意識してもらうために研修というか考える機会もを設けたのは、前回の受審結果を踏まえたもの。全てにおいてとは言えないが、改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	誤薬の事故報告を運営推進会議でおこなった際に、改善策として与薬の際の声のかけ方をご意見頂き、参考となった。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書等の提出の際も含め、市の担当者とやりとりすることもあるので築けていると思う。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の実施等で理解していると思う。ただ、スピーチロックに関しては個人差がある。（とっさに出てしまう）		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して職員の理解は進んでいると思う。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を活用されている入居者の支援をしている。が、学ぶ機会はない。全職員が理解しているかといわれるとそうではない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門的な言葉を使いすぎないようにしているが、十分な理解といわれれば少し不安。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの特性をご理解いただくのに時間のかかった事例もあった。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日報があるが、提案という内容はあまりない、また、代表者が直接話を聞く機会もないため、職員の意見が反映されるようにはなっていない。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	休日出勤や時間外等が多い時期はあった。すぐにはいかなかったが、採用活動が進んだり、シフト調整等でいくらかは改善された。業績に応じ、年度末に期末手当が支給されるようになったり、インフレ手当が支給されたりと法人として改善等に努めていると思う。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修方法がかわったので、受けやすくなった。ただ、手元に資料が残るわけではないので振り返り等ができないのがどうかと感じる。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他事業所の職員等と話すことはあるが、他社となるとあまりない。運営推進会議で居宅のケアマネ等と情報交換することはあるが、メンバーも固定化されてきている。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めているが変動する場面もあった。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞くように努めている。入居が決定する前に見学に来られることがほとんど。その時に状況や要望を聞くことが多い。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでできること、できないこと含めて、サービス内容、対応が不十分な部分もある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛け等家族観を出せるよう接している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりに同様な関係が築けているかは確実ではない。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に対し努めているが、本人のためになっているかは不明。本人が望んでいても、家族希望で関係を断つような対応をせざるを得ない状況もあった。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士ではなく、職員のみと関わられる方もいっしょやる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は入院の長期化、その後、帰館が難しいとの判断からくるものがほとんど。なので、本人フォローはあまりない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や発言をミーティング上で情報を共有しており、それらから希望等を推測するようにしている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、在宅等で何かしらのサービスを受けられていることがほとんど。そのためケアマネさん等からもらった基本情報を確認するなどしている。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの活用で把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング(モニタリング)により意見交換をしながらサービス提供に反映させている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に書くことで個々の対応に違いが生じないように共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化にあわせて対応はおこなっている。(入居料など金銭的な問題があれば特養を勧めたり)が、柔軟な支援ではないと思う。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と地域(外部)が関われる機会があまりない。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前までの主治医。現在も2ユニットで4名の先生が往診に来られている。ご家族が受診にお連れすることもあるが、ほとんどの方が往診してくださる先生に切り替えられている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の他事業所の看護師に相談。もしくはかかりつけ医に連絡して指示をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	先生が往診に来られた際に状況を聞くなどしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変の可能性も含め、状況を家族へ伝えている。終末期に関しては、当グループホームでの考え方をお伝えしご理解いただいていると認識している。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	アクシデント時など早期対応ができていますが、研修で事故防止等はおこなうが訓練はおこなっていない。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修、実践により職員の対応はできていると思うが、近隣との関係構築はできていないと思う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員により差があると感じる。例えば、フロアで皆がいる中で聞こえるような声で「トイレいきましょう」がプライバシーに配慮した声掛けと言えるのかどうかとか。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あまり希望をいわれることはないが、表出できるような声掛けをおこなっている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側・事業者側になってしまう部分はある。時間的な制約等。また、職員間での考えの相違を感じる。（どうしてもその時間にしたい職員と、そうでない職員と）		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できていると思います。更衣の際に何を着たいかとか声はかけているので。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食とも委託業者から上がってくるので作ることはないが、盛り付けや片付けなどできるところは一緒に対応している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な量が飲用されるよう好みを聞き入れ提供している。スポーツドリンクとか。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の対応ができています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の歩行、行動状況を見守りながら誘導をおこなっている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加や乳製品の提供をおこなっている。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の確認、実施ができている。時間帯はどうしても職員数が確保できる時間になってしまう。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和やかな音楽、唱歌を取り入れている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが理解しているかはわからないが、用法や容量はわかるようになっている。（袋に記載等で）		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員にはないが、生け花が好みの方などにおこなってもらうなど支援をおこなっている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内、敷地内の散歩、運動ができている。それ以外の外出はあまりできていない。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が使うことはない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からかけることはあまりないし手紙をだすこともない。支援はできていないと思う。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	海を眺めることができるように明るさや音楽を調整している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はあまり一人になれる状況ではないが、ソファを置いたりと落ち着ける場所の提供、環境づくりはできていると思う。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日やイベント等の写真など居室に飾っている。		

自己	外部	項目（グループホーム干珠）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物で認識できるように支援できている。 例えば「トイレ」とか。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム昇陽館

作成日

令和7年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議に関して、家族代表はいるがそれ以外の家族に対して、会議日程や会議内容など内容を伝えていない。そのため、事業所運営において家族への周知が不足している部分がある。	事業所運営に関し、更なるご理解を得る。	まずは、5月予定の家族会で「運営推進会議」でどのようなことをおこなっているか発信。また、その後の会議後に議事録等を送付。事業所でおこなっていることをオープンにしていく。	1年間
2	4	自己評価に対する意義や理解に対し、職員間の差がある。	各自が自身の行動等を振り返ることができるようになる。	GH理念の研修は継続。6月を予定。また、面談も6月から順次おこなっていく。面談の席で個々が自分の行動を振り返ることができるように目標設定。半年後にそれらを基に再度、面談(12月予定)	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。